

学会より学びが深い!? 食べて語って触って学ぶ

自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

衛藤 彬史



イタリアでは2年に1度、TERRA MADRE（テッラマードレ）と呼ばれるスローフードの祭典が開催されます。

「母なる大地」の名を冠したこのイベントには、世界中から食の生産者、学者、活動家が集まり、「食」をテーマに語り合い、出会い、顔を合わせます。



テッラマードレ 2024 会場のようす

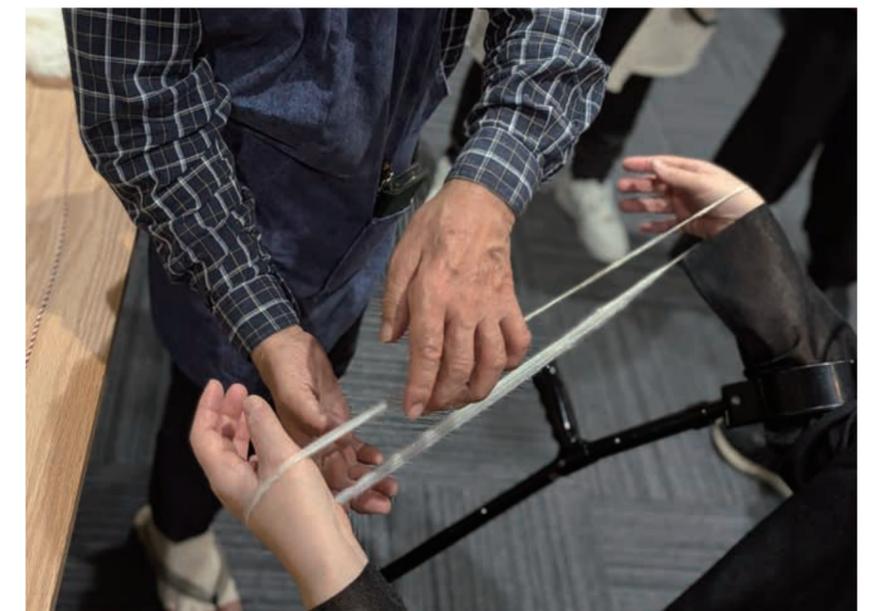
同様に、日本工芸週間では、和紙、絹、漆、ハゼノキ、桐、和鉄など、工芸をささえる素材を軸に、生産者、学者、デザイナーが集い、実物を前に対話し、交流を深めています。どちらも、素材を通じて文化や技術、暮らしの知恵を共有しあう場でもあります。

作り手から直接話を聞ける。手に取って、味わって、感じるができる。そんな「体験」と「実物」に触れることは、思っている以上に学びが多く、そして楽しい時間です。

「あれ、学会より学びが深いのでは?」「何より楽しいし、記憶に残る!」——そんな声が研究者のあいだでささやかれていたのは、ここだけの話です。

ガラスケース内では、ちょっと変わったスローフードや工芸素材を展示しています。触ったり味わったりはできませんが、素材の背後にある風土や営みに、思いをめぐらせてみてください。

博物館もまた、そんな出会いと気づきが生まれる場でありたいと願っています。



「下村ねん糸さんによる手引き真綿糸紬の実演
(日本工芸週間 2025 会場にて)」